



## 目次

### [1. Camera Control機能](#)

### [2. ファームウェアアップデート方法](#)

### [3. キャリブレーション方法](#)

### [4. モニタリングモードとLUTs](#)

### [5. Infoメニュー](#)

### [6. Batteryメニュー](#)

### [7. Audioメニュー](#)

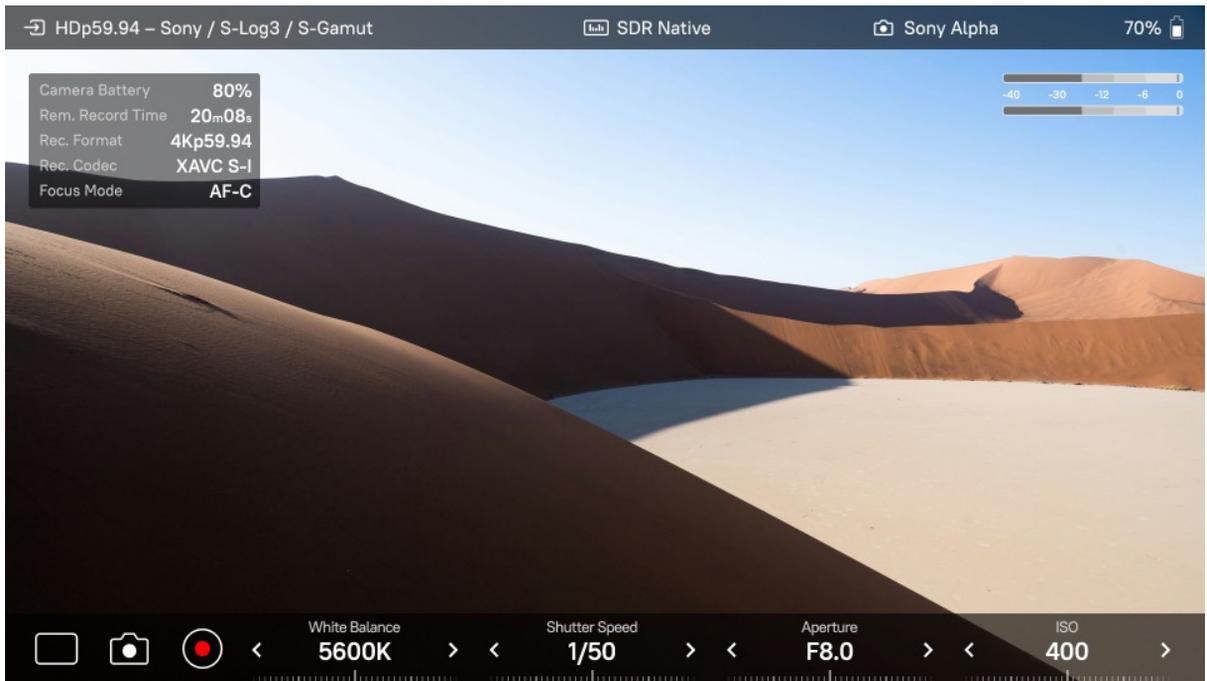
### [8. Controlメニュー](#)

### [9. Inputメニュー](#)

### [10. トップバーと下段メニュー](#)

### [11. 製品各部説明と接続](#)

# 1. Camera Control 機能



Shinobi IIは、キヤノン、パナソニック、ソニーの最近発売されたミラーレスカメラのほとんど、Z CAMのE2シリーズのコンパクトシネマカメラのコントロールをサポートしています。今後のファームウェアのアップデートにより、ニコン、富士フイルム、オリンパス、シグマのカメラの対応を追加する予定ですが、セットアップの手順は以下に説明するUSBセットアップと同じです。

注：Shinobi IIのカメラコントロール機能を使用するためには、カメラメーカーのホームページで提供されている最新のファームウェアに更新していることを確認してください。

## コントロール可能なカメラの設定

1. カメラの収録（スタート&ストップ）
2. ホワイトバランス
3. シャッタースピード
4. 絞り（電子制御対応レンズのみ）
5. ISO

※ 対応するカメラについては  
下記リンク（英語）をご参照ください。  
<https://www.atomos.com/camera-control/>

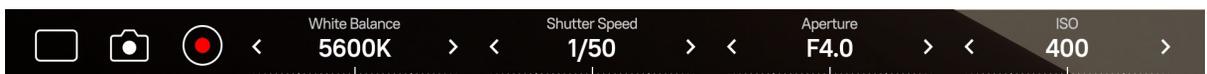
なおカメラコントロールによりカメラのボタンが無効になったり液晶表示が消えるなどの場合がありますので事前に動作確認やカメラの仕様をご確認ください。

カメラコントロールはカメラの撮影モードなど設定をオートからマニュアルにする必要があります。

## カメラステータスパラメーター

1. カメラバッテリー容量
2. 残り収録可能時間
3. 収録フォーマット（カメラ内部収録のフレームレート、解像度）
4. 収録コーデック
5. フォーカスモード

## カメラステータスパラメーター



Shinobillの新機能「カメラコントロール」を利用するには、以下のセットアップ手順に従ってください：

1. コントロールメニューに移動する
  - a. Shinobi II を初めて起動した時、トップメニューのカメラアイコンの横に「Inactive」と表示されています。
  - b. トップメニューバーのどこかを押し、メインメニューが開いたらコントロールメニューのタブを選択します。
2. コントロールメニューが開いたら、下線部の「Off」を押して、デバイスタイプを「Camera」に設定します。
3. ConnectionがUSB（ZCAMの場合はLANC）に設定されていることを確認します。
4. 付属のUSB-CケーブルをShinobi II とカメラのUSB-Cポートに接続します。（Z CAMの場合は、Atomos USB-C to Serialケーブルを使用）
5. HDMIケーブルでカメラとShinobi II を接続します。
6. カメラの電源を入れ、動画モードに切り替えます。
  - a. カメラによっては、自動的に「コントロール」デバイスに接続されていることを検出します。その場合は、ステップ8に進んでください。
  - b. カメラがShinobi II を自動的に検出しない場合は、USB設定を確認してください。カメラコントロールの場合は、「テザリング/リモート撮影」に設定してください。
7. カメラがShinobi II 認識されている場合、コントロールメニューのメーカーとカメラモデルが正しく表示されているか確認してください。下段メニューのカメラコントロールアイコン（左から2番目）がグレーから白に変化します。
8. カメラコントロールアイコンを押すと、下段メニューに記録トリガー、ホワイトバランス、シャッタースピード、絞り、ISOのコントロールが表示されます。
  - a. 表示される設定は、カメラが現在設定しているものですが、オートの場合には一致していないことがあります。これらの設定がカメラ側でオートに設定されている場合、コントロールできないことがあります、カメラ側で設定が変更されても反映されない場合がありますのでご注意ください。
  - b. 露出とホワイトバランスをマニュアルに設定することをお勧めします。
9. メインメニューを閉じて、カメラの操作を開始します。

注：Shinobi II とカメラをUSB-Cで接続した場合、カメラがUSB PDに対応していれば、Shinobi II からカメラにUSB PD電源（最大13W）を供給することができます。

## カメラステータス機能の有効化



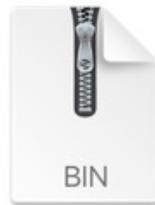
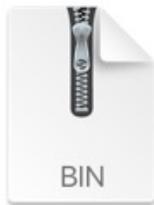
Shinobi II とカメラをカメラコントロールに設定すると、カメラの状態をShinobi II で確認することもできます。アクセス方法は以下の通りです：

1. メニューバーの左端にある「Input status」をタップして、Shinobi IIの入カメニューに移動します。
2. 最初の行にあるカメラステータスのオプションをオンにします。
3. メインメニューを終了すると、Shinobi IIの画面左上にカメラステータスが表示されます  
初期状態では、カメラのバッテリー残量と残り録画時間のみが表示されています。
4. カメラステータス表示をタップすると、カメラの設定情報が5行で表示されます：  
カメラのバッテリー充電レベル、残りの収録時間、内部収録解像度およびフレームレート、  
収録コーデック、カメラのフォーカスモードです。
5. もう一度タップすると、サイズが小さくなります。

## 2. ファームウェアアップデート方法

Shinobillのファームウェアは、常に最新の状態に保つことをお勧めします。  
そうすることで、新機能や重要なバグフィックスをすぐに利用することができます。  
ここでは、Shinobi IIのアップデート方法をご紹介します：

< > **ATOMSHB2\_11.01.00**

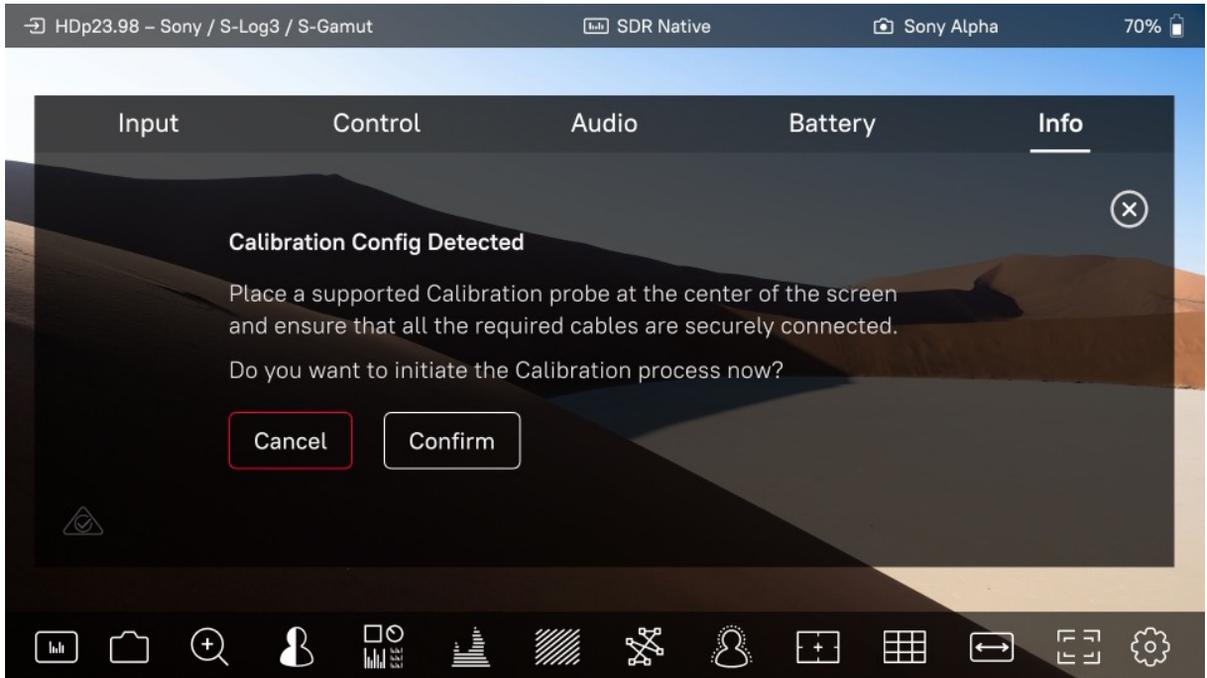


**ATOMSHB2E.bin    ATOMSHB2F.bin    ATOMSHB2VT.bin**

1. AtomosのHPでダウンロード可能なファームウェアZIPファイルを解凍します。
2. ZIPに含まれるすべてのBINファイルをSDカードにコピーします。
  - a. Atomosは、フォーマットをしたSDカードを使用することを推奨します。  
フォーマット形式は、FAT32(MS-DOS)とNTFSファイルシステムをサポートしています。
  - b. ファームウェアアップデートファイルは、フォルダやサブフォルダではなく、  
SDカードのルートディレクトリに置くようにしてください。
3. 充電したてのバッテリーを使用するか、20W以上のUSB-C電源で主電源に接続してください。  
ファームウェアのアップグレード中にShinobi IIの電源が切れないようにしてください。
4. アップデートファイルが入ったSDカードをShinobi IIのSDカードスロットに挿入します。
5. 電源ボタンを短く押し、Shinobi IIの電源を入れます。
6. Atomosのロゴが表示され、数秒後に自動的にファームウェアアップデートが開始されます。
7. ファームウェアのアップデートが終了すると、Shinobi IIの再起動を促すメッセージが表示されます。  
再起動する前に、Shinobi IIがアップデートを完了するまでに数秒の時間を空けてください。

8. Shinobi II の電源ボタンを長押しして電源を切り、すぐに再起動してください。
9. Shinobi II が再起動したら、メインメニューに戻り、情報タブを選択します。  
そこで、バージョン番号がインストールしたファームウェアと一致していることを確認してください。

### 3. キャリブレーション方法



Shinobi IIのキャリブレーションは、コンピュータに接続することなくデバイス上で行えるため、これまで以上に簡単になりました。もちろんPC/Mac用のAtomos Calibratorの最新のアプリはShinobi IIと互換性があります。

キャリブレーションを開始する前に、より正確なキャリブレーション結果を得るために、Shinobi IIを通常の動作温度まで10分程度電源を入れ放置し "ウォームアップ" してください。

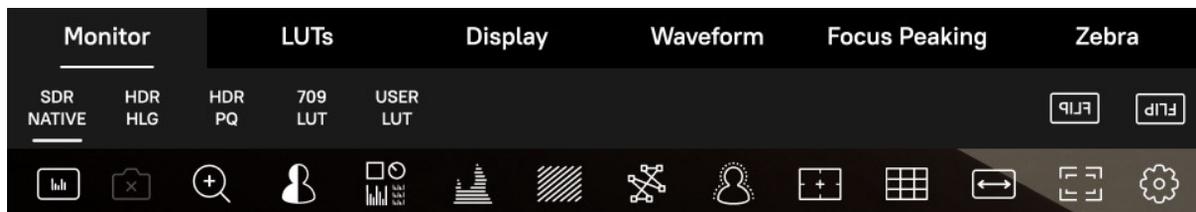
通常の動作温度に達したら、X-RiteまたはCalibriteのキャリブレーターをShinobi IIのUSB-Cポートに接続し（キャリブレーターによっては、USB-A-USB-Cアダプターが必要な場合があります）、情報メニューのキャリブレーションボタンを押して、デバイス上でのキャリブレーションプロセスを開始します。画面に表示される手順に従って、校正が完了するまで待ちます。

注：オンデバイスキャリブレーション機能を使用するには、Shinobi IIのUSBコントロールモードをCalibrationに設定する必要があります。  
Controlメニューのデバイスタイプを「Calibration」に設定します。

PC/MacのAtomos CalibratorアプリでShinobi IIをキャリブレーションするには、ControlメニューのデバイスタイプをOffに切り替え、この記事に記載されている手順に従ってください：  
<https://www.atomos.com/calibration/>

## 4. モニタリングモードとLUTs

モニタリングモードを選択したり、LUTをアップロードするには、画面右端の下部メニューにある設定用歯車アイコンからボトムシェルフメニューを開きます。開くと、左端にモニターとLUTのタブがあります。まずはモニタータブから始めましょう。



デフォルトでは、Shinobi IIはSDR Nativeモニターモードになります。このモードでは、入力されたHDMI信号をそのまま表示します。

その隣がHDR HLGモードです。このモードは、トーンマッピングを使用して、入力されたLog信号をHLG規格を使用したHDRワークフローで最終的に表示される画像に変換します。

さらに1つ右に進むと、HDR PQモードがあります。このモードもトーンマッピングを使用して、入力されたLog入力を、PQ標準を使用したHDRワークフローで最終的に画像がどのように見えるかを変換します。

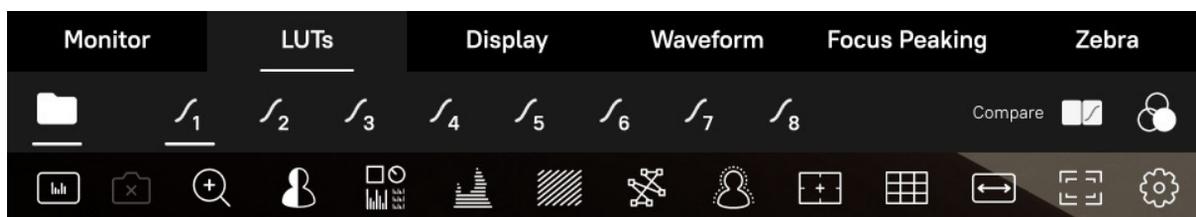
次に、709 LUTモードがある。このモードは主に比較のためのもので、HDRプレビューでSDR画像の限られたダイナミックレンジをシミュレートします。

リストの5番目はUSER LUTモードです。このモードを使うには、まずLUTをアップロードする必要があります。

注：入力モードのLog/HDR機能が無効になっている場合、HDR HLG、HDR PQ、709 LUTモードは選択できません。これらのHDRモードで正しいトーンマッピングを適用するには、Log/HDR機能を有効にし、カメラからShinobi IIに出力されるLog信号の種類を指定する必要があります。

モニタータブの右端には、Shinobi IIの画像表示を上下左右に反転させるオプションもあります。

### LUTs



Shinobi IIのLUT機能にアクセスするには、下部メニューのLUTsタブに移動します。開くと、左側にフォルダアイコンがあり、その右隣にLUT用のスロットが8つ並んでいるのが分かると思います。

LUTを8つのプリセットスロットにアップロードする方法：

1. 利用可能な8つのLUTスロットのいずれかを選択（デフォルトではスロット1が選択されています）。
2. LUTを保存したSDカード（FAT32（MS-DOS）およびNTFSフォーマット）をSDカードスロットに挿入します。
3. LUTメニューの左側にあるフォルダアイコンを押すと、ファイルブラウザが開きます。

4. SDカードファイルブラウザで、ロードしたいLUTを置いた場所へ移動します。
5. アップロードしたいLUTを選択し、confirmをタップします。
6. アップロードが完了するまで待ち、ダイアログを閉じます。
7. これで選択したLUTは、選択したスロットにロードされました。

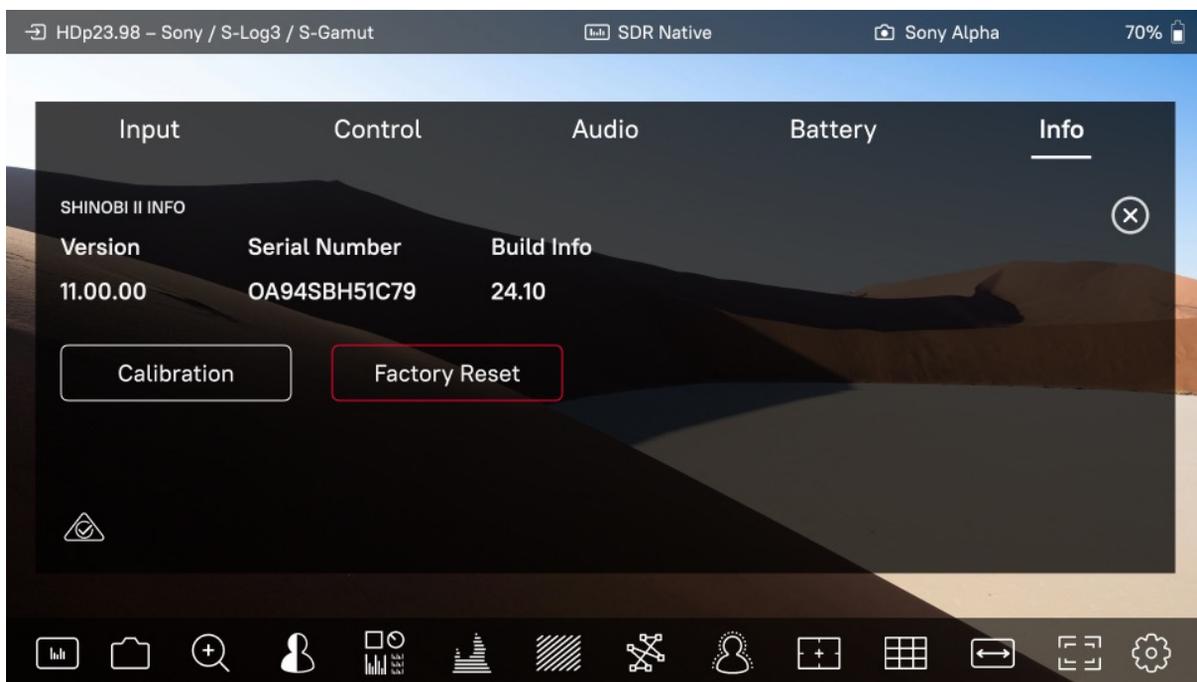
このLUTをShinobi IIでモニタリングに使用するには、下部メニューのMonitorタブに戻り、モニタリングモードとしてUSER LUTを選択します。

注：Shinobi IIは.Cube形式のLUTに対応しています（17と33pointsに対応）。

LUTsタブの右端に、比較オプションがあります。これをタップすると、画像が2つに分割されて表示されます。画面左側はLUTなしの画像、画面右側はLUTを適用した画像になります。

その隣には、ブルー専用モードがあります。このモードは、白黒のブルーチャンネルのみを使って画像をモニターするのに便利で、ノイズ/グレインが特によく強調されます。

## 5. infoメニュー



infoメニューは、他のタブほど頻繁にアクセスする必要のあるものではありませんが、現在インストールされているファームウェアのバージョン、デバイスのシリアル番号、ファームウェアのビルド情報などの情報を提供します。

2行目には、キャリブレーションとファクトリーリセットのオプションがあります。ファクトリーリセットボタンを押すと、Shinobi IIの設定がすべてデフォルトの状態にリセットされますが、過去にアップロードしたLUTは削除されません。

## 6. Batteryメニュー



バッテリーメニューでは、トップメニューバーの右端に表示されるバッテリーインジケータ以外にも、いくつかの詳細が表示されます。

ここでは、バッテリーの推定充電量と現在の出力電圧が表示されます。

右側にはUSB-C PD電源用の電圧インジケータもあり、Shinobi IIをUSB-C PD電源アダプター（20W以上）やモバイルバッテリーなどから給電している場合に表示されます。

これらの電源に関しては、選択することはできず電圧の高い側からの電源供給となります。

注：Shinobi IIをUSB-C経由でカメラに接続した場合、カメラがUSB-C PDに対応していれば、Shinobi IIからカメラにUSB-C PD電源（最大13W）を供給することができます。

## 7. Audioメニュー

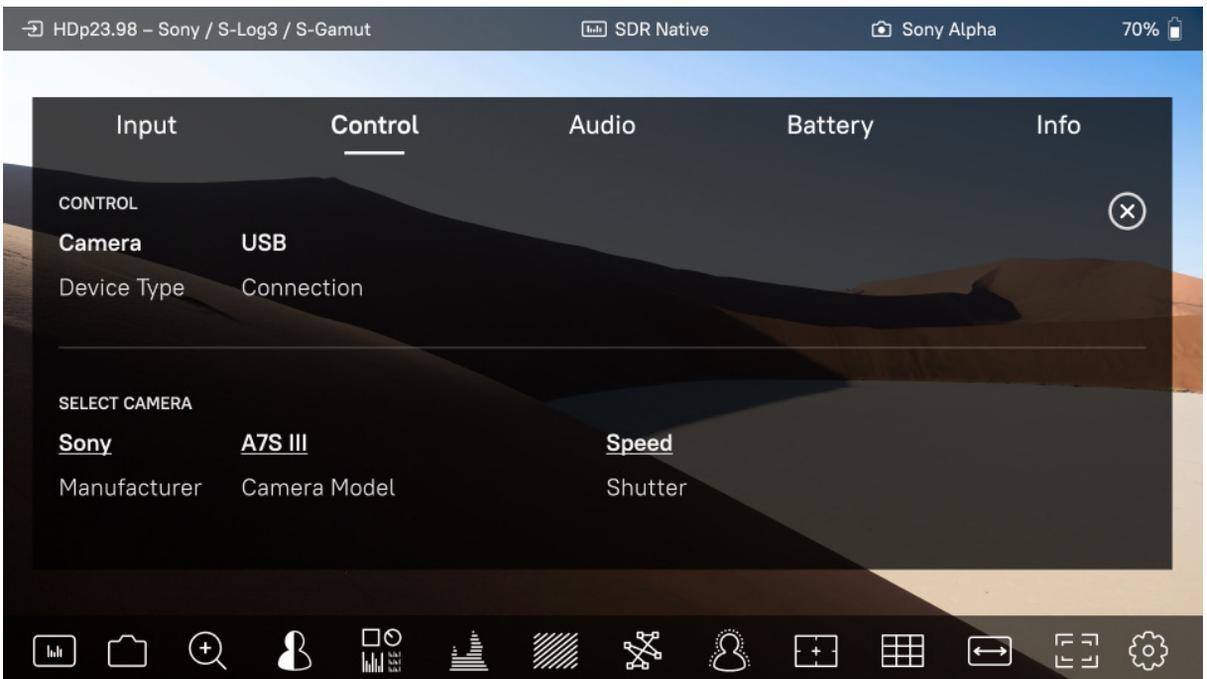


オーディオメニューでは、ヘッドフォン端子から出力される音声の音量をスライダーで増減することができます。

注：Shinobi II 本体にスピーカーは内蔵していないため、音声を確認するにはヘッドホンなどを接続してください。

注：Shinobi IIでモニターできるのは、カメラのHDMI信号に埋め込まれた2チャンネルの音声のみです。

## 8. Controlメニュー



コントロールメニューは、カメラコントロールに関連するメニューになります。

初めてこのメニューに入るときは、コントロール機能はまだオフになっています。Onにするには、左上の Device Typeの上にあるOFFという文字を押します。「Camera」と「Calibration」の2つのオプションが表示されます。Cameraを選択するとカメラコントロール機能となります。

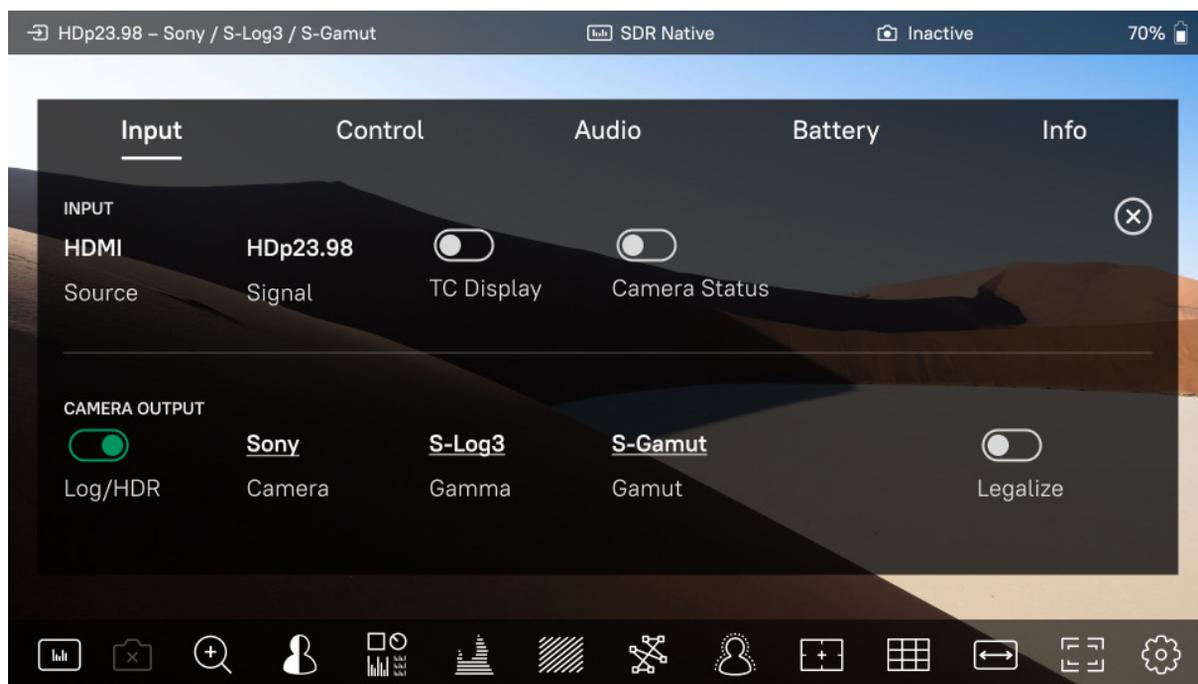
デバイスタイプとして「Camera」を選択すると、接続タイプセレクトタの上にUSBまたはLanCのオプションが表示されます。USBはキヤノン、パナソニック、ソニーのカメラをコントロールする場合に使用し、LanCはZ CAMをコントロールする場合に選択します。使用する接続タイプが決まったら、あとは適切なケーブルをカメラに接続するだけです。USB-Cの場合は、Shinobi IIに付属しているケーブルか、USB2.0以上の速度でデータ転送が可能なUSB-Cケーブルであれば使用できます。LanC (Z CAM) の場合は、別売りのUSB-C-シリアルケーブル (ATOMCAB018) をご利用ください。

Shinobi IIとカメラを接続すると、「SELECT CAMERA」のステータスが自動的に更新されます。カメラのメーカーとモデルが正しく表示されていることを確認してください。

デバイス・モードの「Calibration」：X-Rite社製またはCalibrite社製のキャリブレーターを使用してShinobi IIをキャリブレーションする場合にのみ、このモードを使用してください。これらのキャリブレーターをお持ちの場合は、Shinobi IIのUSB-Cポートに直接接続することができます (USB-A - USB-Cアダプターが必要です)。差し込んだら、「info」タブからオンデバイスキャリブレーションを開始できます。

注：PC/MacでAtomos Calibratorアプリを使ってShinobi IIのディスプレイをキャリブレーションする場合は、ControlをOFFに設定する必要があります。

## 9. Inputメニュー



インプットメニューは入力信号の概要を表示します (左上)。

1行目では、タイムコード表示を無効にしたり、カメラステータス表示をオンにしたりできます (カメラコントロールモードで便利です)。

2行目では、カメラのLog出力信号のカラープロパティを指定できます。

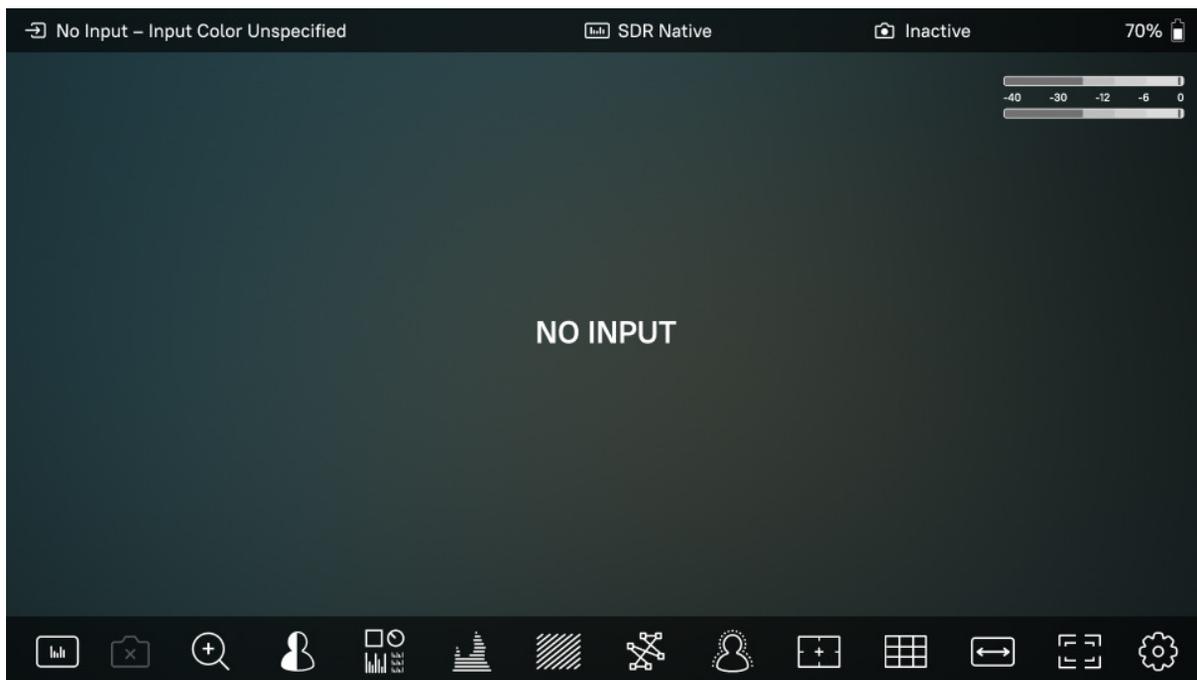
まず、Log/HDRをオンにしてから、Shinobi IIで正確な色処理を行うために、カメラのLog出力に合うように以降のオプションを設定します。

例 Sony α7S IIIのS-GamutでSony S-Log3を撮影する場合、Shinobi IIのLog/HDRセクションでこれらのパラメータを適宜定義する必要があります。

Legalizeオプションはデフォルトではオフになっており、特定のワークフローでのみ使用する必要があります。HDR HLGおよびPQモニタリングモードでLog Signalsをモニタリングする場合はオフのままにし、SDRワークフローでLog Signals SDR LUTをモニタリングする場合はオンにします。モニタリングモードについては、別記事で詳しく説明しています。

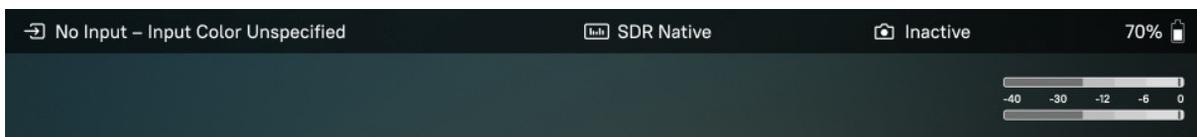
## 10. トップバーと下段メニュー

初めてShinobi IIの電源を入れると、No Inputの画面が表示されます。これは、現在Shinobi IIに入力ソースが接続されていないことを示します。



### トップメニューバー

トップメニューバーは、Shinobi IIを使う上で最も重要なパラメーターが一目でわかるようにまとめられています。左から順に見ていきます。



**input**：入力信号の仕様（解像度、フレームレート）をハイライト表示します。Shinobi IIに何も接続されていない時は、No Inputと表示されます。

注：初回起動時、上部メニューバーの入力欄にも「Input Color Unspecified」と表示されますが、これはカメラからShinobi IIに入力される信号が未指定であることを強調しています。詳しくはinputメニューの部分をご覧ください。

**モニターモード**：デバイスが現在設定されているモニターモードを表示します。デフォルトではSDR Nativeに設定されており、Log変換やLUTが適用されていない入力信号がそのまま表示されます。

**カメラ制御ステータス**：カメラコントロール有効時に、Shinobi IIに接続されているカメラを指定します。デフォルトでは「Inactive」と表示されます。

**Power**：バッテリーの充電状態を100%から0%の範囲で表示します。

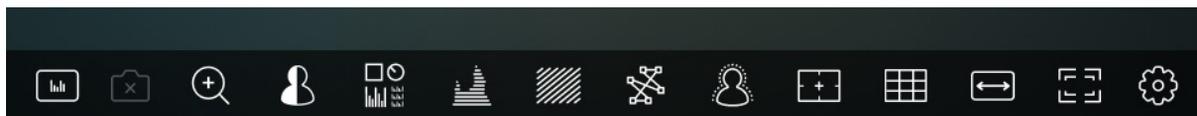
注：USB PD経由で給電している場合は100%になります。

**オーディオメーター**：Shinobi IIに入力されているHDMI信号のエンベデッドオーディオのオーディオメーターが表示されます。

注：トップバーをタップすると、メインメニューの該当タブにクイックアクセスできます。

## 下段メニュー

下段メニューには2つの状態があり、Shinobi IIの様々な機能に素早くアクセスできます。まずは「モニタリングモード」を中心に、左から右へ順に見ていきます。



**モニターボタン**：モニタリングメニューのOn、Offを切り替えます。

1. コンパクトモード：モニタリングメニューをOffにし、オーディオメーターとTCを下段に表示します。
2. フルモード：モニタリングメニューをOnにし様々なツールにアクセスできます。

**カメラコントロールボタン**：カメラコントロールボタンは、Shinobi IIがカメラコントロールに設定されていない場合、グレーアウトして表示されます。Shinobi IIが対応カメラと接続され、カメラコントロールが可能になると、アイコンがアクティブな状態で表示されます。このアイコンを押すと、再び下段のメニューが表示され、カメラコントロールオプションがすべて表示されるようになります。これについては1. Camera Control機能をご覧ください。

これら2つの主要な機能ボタンの他に、モニタリングツールにアクセスするための12個のアイコンボタンがあります。

**フォーカスズーム**：このアイコンをタップすると、画像がズームされ、フォーカスを確認できます。このボタンを繰り返しタップすると、ズーム倍率を上げることができます。拡大後は、画面上で指をドラッグして位置を移動できます。

**フォールスカラー**：フォールスカラーオーバーレイを表示すると、通常の色画像を14の「露出範囲」に変換し、それぞれの色を強調表示することができ、直感的に露出を判断することができます。

例) 白人の肌は一般的に59~78%の輝度で露光されるため、フォールスカラーを有効にして肌がフラットなグレーで覆われていれば、露出が適正であることがわかります。フォールスカラーを有効化すると、各レンジのカラースケールが画面の左端に表示されます。

**分析モード**：レベル、ヒストグラム/波形、ベクトル・スコープ、オーディオ・メーターとともに入力信号を表示することができます。

**波形**：入力信号の露光範囲を分析するための波形モニターを表示します。左下の小さいサイズの波形ディスプレイをタップすると、画面の幅いっぱいに表示されます。もう一度タップすると、波形モニターがフルサイズで表示され、ほぼ画面全体をカバーします。

**ゼブラ**：フォールスカラーと同様に、ゼブラ機能は画像の特定の露光範囲を強調表示する簡略化された方法です。このツールは色の代わりにゼブラパターンでこれらの範囲を強調表示します。

例) 画像のハイライト部分を「クリッピング」から保護したい場合、ゼブラしきい値を100%以上に設定します。これで、シーン内の要素がカメラセンサーのキャプチャ可能な明るさの100%を超えるたびに、ゼブラパターンでハイライトされ、その領域では純粋な白/色情報のみがキャプチャされていること（白飛び）を知らせることができます。画像全体の露出を下げると、100%のゼブラは消えます。

**ベクタースコープ**：ベクタースコープには、画像の色相と彩度の度合いを示すマークがあります。マークが中心から離れるほど、画像の彩度が高くなります。画像の色情報ではなく、露出のみに注目する波形モニターと組み合わせて使用するのが一般的です。

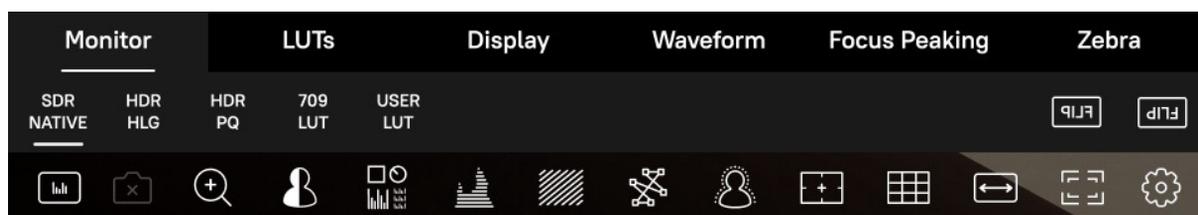
**フォーカスピーキング**：ズームツールを使って拡大することなく、フォーカスを合わせるために、画像の最もコントラストの高い部分/ピントの合った部分をカラーでハイライトします。強度、色、およびさまざまなピーキングモードは、歯車をタップし表示される下段のメニューで設定できます。

**フレームガイド**：フレームガイドは、映画やソーシャルメディア配信用にネイティブ16：9入力をフレーミングするために、画像の上に重ねることができます。Shinobi IIには様々なフレームガイドプリセットが用意されており、フレームガイドボタンを繰り返し押すことでプリセットを切り替えることができます。

**9-グリッド**：9-グリッドは、構図を決めたり、水平線などが水平かどうかを確認したりするのに便利なツールです。

**セーフエリア**：SMPTEセーフタイトルエリア（93% & 90%）を表示します。

**設定アイコン**：歯車アイコンをタップすると、別の下段メニューが開き、フォーカスピーキング、波形（サイズ、種類、不透明度など）など、上記のモニタリングツールの多くを微調整できます。また、HDR PQ、HDR HLG、LUT機能などのモニターモードにアクセスするためにも使用します。



## 11. 製品各部説明と接続

Shinobi IIの前面は、5インチのSuperAtom IPSディスプレイのタッチパネルです。



デバイスの右側には、多目的電源ボタンと、ファームウェアのアップデートやLUTのアップロードに使用するShinobi IIのSDカードスロットがあります。

デバイスの右側には、多目的電源ボタンと、ファームウェアのアップデートやLUTのアップロードに使用するShinobi IIのSDカードスロットがあります。



※起動する際には、電源ボタンを一度だけ軽く押して起動してください。

電源ボタンを長押ししたり何回か押したときには黒い画面のまま正常に起動しません。

筐体の左側には、3.5 mm ヘッドフォンジャックと、2.5 mm シリアル/LANC コネクタ (Remote と表示) があります。



Shinobi IIの最も重要なポートは、デバイスの背面に配置されています。  
HDMI1.4入力（4Kp30までの入力信号をサポート）と、右上の多用途USB-Cポートです。  
注：USB-Cポートは、Shinobi IIに給電するためのUSB PDの入力、またはカメラコントロール用として使用することができます、同時にカメラに給電/充電することができます。



HDMIとUSB-Cポートの真上と真下には、2つのネジ山があります。これは、付属のロック式ケーブルアダプターを取り付けるためのものです。Atomosは様々なロック式HDMIケーブルを販売しており、このアダプターを使用することで、モニター側で誤ってHDMIが抜けるリスクを予防することができます。



中央にはNP-F/Lシリーズのバッテリースロットがあり、左にバッテリーリリースボタンがあります。



もう一つの物理的な特徴は、バッテリーコンパートメントの上部に沿ったデバイスの換気口です。



Shinobi II筐体底部には1/4インチ/20スレッドと、筐体底部の位置決めピン用の穴が用意されています。